

## 2・2 生活化学部

平成 22 年度は、行政依頼検査として食品中の残留農薬検査、食品、食品添加物の規格基準検査、畜水産食品中の動物用医薬品残留検査及び家庭用品の有害物質検査のほか、熊本県食の安全安心推進条例に基づく県産農林水産物中の農薬・動物用医薬品の出荷前残留検査を実施した。

その他、農林水産部からの依頼による松くい虫防除に使用する薬剤の残留調査を実施した。

主な試験検査及び調査研究の概要は次のとおりである。なお、業務実績表を別表に示す。

### 2・2・1 試験検査

#### 1) 食品・添加物等の規格基準検査

食品中の添加物検査として、保存料、甘味料、酸化防止剤、着色料、漂白剤、発色剤等の検査を実施した。使用基準値超過及び指定外添加物は検出されなかった。

食品成分規格検査では、清涼飲料水、玄米等について実施したが、基準値を超えたものはなかった。

#### 2) 魚介類の水銀検査

県内で漁獲され、県内に流通している魚介類の総水銀検査を実施してきたが、平成 13 年度からは総水銀検査を保健所試験検査課で行い、当所では暫定的規制値を超える検体について有機水銀検査を実施することになっているが、平成 22 年度は該当する検査はなかった。

#### 3) 畜水産食品中の動物用医薬品残留検査

生産段階で使用される動物用医薬品及び飼料添加物等が、食肉・魚介類等の畜水産食品中に残留している実態を把握するため、食肉、養殖魚介類、牛乳及び卵について、動物用医薬品の検査を実施した。食品衛生法の基準値を超えるものはなかった。

#### 4) 食品中の残留農薬検査

輸入食品を含む野菜、果実、茶等の農作物について、残留農薬試験を実施した。食品衛生法の基準値を超えるものはなかった。

#### 5) 特定アレルギー物質検査

食品中の特定アレルギー物質（小麦、乳、卵、そば、落花生、及びえび、かに）の表示確認試験を実施した。菓子 1 検体に乳の表示違反があった。

#### 6) 家庭用品中有害物質含有検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、試買した繊維製品中のホルムアルデヒド及びディルドリン、家庭用洗剤の水酸化ナトリウム・水酸化カリウム等について

検査を実施したが、基準値を超えるものはなかった。

#### 7) 医薬品等に関する試験検査

平成 22 年度は、該当する検査はなかった。

#### 8) 器具、容器包装の規格基準検査

食品の調理、製造加工、運搬及び保存などに用いられる器具及び容器包装については、食品衛生法によってその材質毎に規格基準が定められている。平成 22 年度は割り箸、陶磁器、ガラス容器、合成樹脂製品について防かび剤、二酸化硫黄、蛍光増白剤、重金属などの試験を実施した結果、限度値を超えるものはなかった。

#### 9) おもちゃの規格基準検査

おもちゃについては、食品衛生法によってその材質毎に規格基準が定められている。平成 22 年度は、着色料、重金属の試験を実施した結果、指定外着色料は不検出であり、重金属の限度値を超えるものもなかった。

#### 10) 食品苦情に伴う理化学的原因調査

平成 22 年度は、該当する検査はなかった。

#### 11) 松くい虫特別防除薬剤残留検査

球磨郡あさぎり町において、平成 22 年 5 月下旬から 6 月上旬に実施された松食い虫防除の影響調査のため、流域の河川水と水源における使用薬剤の残留試験を実施した。

#### 12) GLP に関する精度管理試験

食品衛生外部精度管理調査に参加した。

調査項目は、重金属（Cd）、食品添加物（サッカリン Na）、残留農薬（チオベンカルブ、マラチオン、クロルピリホス）及び残留動物用医薬品（スルファジミジン）であり、結果は全て良好であった。

### 13) フグ毒試験

平成 22 年度は、該当する検査はなかった。

### 14) 熊本県食の安全安心推進条例に基づく出荷前農薬等検査

県産の主要な農林水産物について残留農薬、動物用医薬品の出荷前検査を実施した。食品衛生法の基準値を超えるものはなかった。

### 15) 農水省事故米に係る試験検査

焼酎 2 検体について、アフラトキシンの検査を実施した。2 検体ともアフラトキシンは不検出であった。

### 16) 危機管理検査

県内で、農薬が原因と推定される井戸水汚染事故が発生し、井戸水について 464 農薬の検査を実施した結果、プロモホスを検出した。他の 463 農薬は不検出であった。また、この井戸水を飲んだおそれのある牛の乳 3 検体についてプロモホスの検査を実施した結果、いずれも不検出であった。

### 17) 一般依頼試験

河川水 7 検体及びミツパチ 1 検体のチアクロプリドの検査依頼があった。検査結果は全て不検出であった。

## 2・2・2 調査研究

### 1) 畜水産食品中の動物用医薬品迅速分析法に関する研究

LC/MS/MS を使用した動物用医薬品の迅速一斉分析法の検討を行った。

### 2) テトロドトキシン及びその類縁体を含めた機器分析に関する研究

TTX 類縁体の TTX に対する比毒力を求め、最終的には TTX とその類縁体を同時に機器分析で定量することで、公定法(マウス試験法)と同等の結果を迅速に得るための検討を行った。

### 3) 水中の農薬多成分迅速分析法の開発

健康危機管理対策のため、公共用水域や飲料水中に混入した農薬について、ケイソウ土カラム精製と GC/MS、希釈法と LC/MS/MS を組み合わせることにより、561 農薬成分を迅速に分析する方法を確立した。

### 4) 高濃度オゾンガス処理による土壤中残留農薬低減化技術の確立

高濃度オゾンガスによる土壤中残留農薬を低減化する技術を確立するため、処理法、処理濃度、処理時間等の検討を行い、最も効率のいい方法を確立した。

H22生活化学部業務実績表

分類	事業名	業務	平成22年度		平成21年度		
			検体数	延項目数	検体数	延項目数	
行政検査	(1) 食品・添加物等の規格基準検査	(イ) 清涼飲料水成分規格	26	104	19	76	
		(ロ) 人工甘味料	82	126	36	39	
		(ハ) 合成着色料	53	852	34	476	
		(ニ) 合成保存料	55	73	23	26	
		(ホ) 発色剤 亜硝酸ナトリウム	4	4	0	0	
		(ヘ) 漂白剤 二酸化硫黄等	0	0	1	1	
		(ト) フォスフィン酸トリウム	1	1	0	0	
		(チ) 米(玄米)中Cd	6	6	6	6	
		(リ) 酸化防止剤	22	127	4	4	
		(ス) 防かび剤	4	16	9	36	
		(ル) メラミン	0	0	0	0	
		小計	253	1,309	132	664	
		(2) 魚介類の水銀検査	0	0	0	0	
		(3) 畜水産食品中の動物用医薬品残留検査	77	8991	70	8,251	
		(4) 食品中の残留農薬検査	(イ) 野菜,果実,米穀,茶	125	54,526	132	57,460
			(ロ) 輸入・国産食肉	0	0	0	0
			(ハ) 牛乳	0	0	0	0
			小計	125	54,526	132	57,460
		(5) 特定アレルギー物質検査	41	41	31	31	
		(6) 家庭用品中有害物質含有検査	(イ) 繊維製品	31	57	24	59
			(ロ) 家庭用洗剤等	3	6	6	8
			小計	34	63	30	67
		(7) 医薬品等に関する試験検査	健康食品	0	0	4	24
		(8) 器具・容器包装規格基準検査	材質及び溶出試験	20	56	26	87
		(9) おもちゃの規格基準検査		10	50	15	274
		(10) 食品苦情に伴う理化学的原因調査		0	0	0	0
		(11) 松くい虫特別防除薬剤残留検査		14	14	21	21
	(12) GLPに関する精度管理試験	合成保存料,重金属,残留農薬,合成抗菌剤	4	6	4	6	
	(13) フグ毒試験	テトロドトキシン	0	0	0	0	
	(14) 熊本県食の安全安心推進条例に基づく出荷前農薬等検査	(イ) 野菜,果実,穀類,茶	61	14,752	65	15,301	
		(ロ) 畜水産物	38	3,602	39	3,678	
		小計	99	18,354	104	18,979	
	(15) 農水省事故米にかかる試験検査		2	8	0	0	
	(16) 危機管理検査		4	468	4	16	
		合計	683	83,886	573	85,880	
	一般依頼試験		8	8	1	5	
		総計	691	83,894	574	85,885	